

万博計画具体化検討ワーキンググループと 関西広域連合委員等の意見交換

1 進 行

- (1) 開会
- (2) 有識者（関西広域連合委員等）からの意見
- (3) フリーディスカッション
- (4) 閉会

2 出席者

(1) 万博計画具体化検討ワーキンググループ

- | | | |
|-------|----|----------------------|
| 石川 善樹 | 委員 | (株式会社ハビテック 研究所長) |
| 齋藤 精一 | 委員 | (株式会社ライゾマティクス 代表取締役) |
| 澤田 裕二 | 委員 | (UG WORK 合同会社 代表) |
| 豊田 啓介 | 委員 | (noiz パートナー) |
| 橋爪 紳也 | 委員 | (大阪府立大学 研究推進機構特別教授) |

(2) 経済産業省、2025 年日本国際博覧会協会

(経済産業省)

- | | |
|--------|--------------------|
| 藤木 利光 | 商務・サービス審議官 |
| 森 清 | 近畿経済産業局長 |
| 黒田 淳一郎 | 2025 年国際博覧会統括調整官 |
| 武田 家明 | 商務・サービスグループ博覧会推進室長 |

(2025 年日本国際博覧会協会)

- | | |
|-------|------|
| 石毛 博行 | 事務総長 |
|-------|------|

(3) 関西広域連合委員等

- 関西広域連合委員、副委員、福井県（連携団体）知事 等

大阪・関西万博開催に向けた意見

所属 関西広域連合長 名前 井戸 敏三

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

○大阪・関西万博の開催に期待し、関西全体で盛り上げたい。関西広域連合としても、積極的に参画していく。

「2025年大阪・関西万博」の開催は、世界レベルのライフサイエンス分野の大学・企業・研究機関が集積する関西の強みをさらに伸ばす機会である。

関西広域連合においても、関西のライフサイエンス関連の産官学が結集した「関西健康医療創生会議」を設立し、様々な取組を展開している。

また、関西の厚みのある歴史や文化、多様な地域の魅力を国内外の人々に知っていただき、さらには交流を通じて関西の活性化につながるものと大いに期待しており、関西全体で盛り上げていきたい。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

○大阪・関西万博の具体化の検討にあたっては、大阪だけでなく、常に関西全体を視野に入れ、関西広域の視点を持って検討すること。併せて次世代を担う若者の意見を取り入れることを検討されたい。

関西には世界レベルのライフサイエンス分野の集積や厚みのある歴史・文化、多様な地域の魅力があり、大阪・関西万博の具体化の検討にあたっては、こうした資源の活用努めると共に、大阪だけでなく、常に関西全体を視野に入れ、関西広域の視点を持って検討されたい。

併せて、次世代を担う若者の意見を取り入れることを検討されたい。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

○サテライト会場の開設を検討すること。

万博のメイン会場は「夢洲」となるが、「ビッドドシエ」にもあるように会場外の施設や地域との連携を図ることは、この万博を大阪・関西で開催する大きな意義になると考える。

関西全域で、どのように万博会場と連携した取組(サテライト会場の設置、関連イベントの実施等)を行うかの検討にあたっては、関西の自治体とも十分に意見交換し、具体化に向けて積極的に検討されたい。

○ 関西3空港等関西圏域にある空港の活用や、海上アクセスの開設等、大阪湾ベイエリア区域全体の活用を視野に入れて検討すること。

サテライト会場の開設やイベントの開催、会場へのアクセス等については、大阪湾ベイエリア区域全体の活用を視野に入れて検討を進める必要がある。

神戸等の西側地域を含めた交通アクセスについては、万博会場が「夢洲」となることの立地条件を生かし、高速艇等の海上交通の活用について検討されたい。

万博では、国内外から多くの来場者が見込まれる。拡大する航空需要を関西全体で取り込み、関西経済の浮揚につなげていくためには、関西3空港の活用を図ることが必要である。

また、徳島阿波おどり空港や、南紀白浜空港などの関西圏域に存在する空港の活用も図られたい。

4. そのほか、御自由に御意見を申し上げます。

○ 「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」のレガシーを万博につなぐとともに、万博のレガシーをその先へとつなぐこと。

2021年には、世界最大の生涯スポーツ大会「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」が、国内外から約5万人の参加を得て、アジアで初めて関西で開催される。この大会は、生涯スポーツを通じて健康増進を図ることを目的として開催するものであり、「いのち輝く未来社会のデザイン」という万博のテーマにもつながる。

この大会を通じて世界に発信される生涯スポーツの意義はもとより、関西全体の観光・文化の魅力や広域周遊ルートの定着、観光案内板等の多言語化や無料Wi-Fi整備の促進による地域の国際化等をレガシーとしてしっかりと万博へつなげていく必要がある。

万博についても、一過性のイベントに終わらせずに、その先へとレガシーをしっかりと引き継ぐ必要がある。

以上

大阪・関西万博開催に向けた意見

所属 関西広域連合委員 兵庫県知事 名前 井戸 敏三

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

歴史上長きにわたり首都として日本を牽引してきた関西の魅力を発信する場として最大限活用。観光客の増大や地域経済の活性化を通じて、首都圏とともに日本を牽引する関西を創る。

● 世界中の高度人材を惹きつける“関西健康技術Power”の発信

神戸医療産業都市やWHO神戸センターなどの優れた医療・研究機関、国家基幹技術であるSACLA、Spring-8など世界的な研究基盤の集積を発信し、研究人材、産業の流入を期待。

● 世界中の若者・交流人を惹きつける“関西観光文化Power”の発信

日本の文化首都として育んできた伝統・芸術文化を発信し、国際交流人口の拡大を期待。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

健康長寿先進国・日本の優れた「基盤」「技術」「研究」を世界に発信し、人類社会が直面する課題への解決策を世界に示す。

- 日本が戦後一貫して取組んできた保健医療基盤（衛生面、防疫面、インフラ面等）の提供を通して、開発途上国の健康社会づくりに貢献。
- 世界に先んじて高齢社会を迎えた日本に蓄積されたノウハウ（社会保障制度、リハビリ技術、認知症対策、介護・リハビリロボットの導入）の提供を通して、今後、アジア諸国が直面する課題と対応策を提示
- 日本が先導する高度な遠隔治療技術や再生医療、遺伝子治療など最先端研究を通して、人類社会の医療技術の将来像を展望

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見を願います。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

● 関西パビリオン（関西広域統一テーマ館）の設置

①世界レベルのライフサイエンス分野の大学、企業、研究機関が集積する関西の強み、②関西の厚みのある歴史や文化、多様な地域の魅力を発信する。

愛知万博の際に中部圏9県が共同でパビリオンを設置した事例も参考にどのような取り組みができるのか検討していきたい。VR技術や自動運転車など先端技術の体験型を基本に、若年層の好奇心を満足させる内容とする。

- 関西各府県へのサテライト会場の設置

メイン会場の展示を実体験できるサテライト会場を設け、来場者に関西の魅力を体感して頂く。

(兵庫県コンテンツ例)

例：医療産業記念館（医療産業都市（ポートアイランド））

震災復興のリーディングプロジェクトとして成果が上がってきた医療産業都市で取り組む免疫療法等の研究成果について、一般市民の理解を深めるため、免疫細胞の最先端の知見を面白く学べる体験型パビリオンを整備（万博後も医療産業都市における恒久施設として残す前提で）

例：国生み神話館（淡路夢舞台）

世界中からやってくる観光客向けに、日本のルーツ（神話）を知ってもらうための劇場型施設を整備（仮設構造物を想定）。日本のルーツが淡路島であることや大和など神話の世界の地である関西を知ってもらうため、神話の世界を映像化し上演する。映像中で、実際に淡路に残る神話由来の史跡（伊弉諾神宮、松帆銅鐸、上立神岩など）の3D画像も紹介し、現地を見に行くツアーも開発

例：姫路伝統文化館（姫路市）

日本が誇る世界遺産姫路城を中心に、山岳仏教（圓教寺、一乗寺等）をはじめ、播磨の歴史文化を発信

- 海上交通の整備

- ・ 空港と各会場間でのシャトル便の運行

関空、神戸空港と夢洲を結ぶシャトル便（定期便）の運行

(課題)

万博期間限定の6か月程度の運航では採算がとれない（県内船舶関係者）

⇒ I R施設との恒久的なアクセスとして検討が必要。

- ・ 瀬戸内海クルーズ

海上アクセスと併せて、西洋人に人気の瀬戸内の島々の歴史文化・自然を巡るクルーズツアーを展開。

- 関西3空港のさらなる活用

万博に向けて拡大する航空需要を関西全体で取り込むために、関西圏域に存在する空港の積極活用を図る。

- 六甲山観光の再興

西洋人が避暑地として着目し、リゾート開発を進めた六甲山の魅力を改めて周知する。

4. そのほか、御自由に御意見を申し上げます。

以上

大阪・関西万博開催に向けた意見

所属 関西広域連合委員 和歌山県知事 名前 仁坂 吉伸

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

2025年の大阪・関西万博は、関西、日本再浮上のチャンス。

観光客の増大、地域経済の発展に繋がることを大いに期待するもの。

その効果を最大限のものとするには、以下のような視点に基づいた取組が重要。

- ①一過性でなく、何度も関西を訪れたいような「おもてなし」の視点
- ②関西が有する歴史・文化・自然につなげる「広域周遊観光」の視点
- ③関西への「新たな投資を呼び込む」視点

様々な取組を展開するには、関西の各府県市、住民、企業等が、それぞれの持つ力を生かし、積極的に協力する必要がある。

おもてなし

- ・みんなで、外国人、高齢者、障がい者などをサポート。また、最先端技術によるバリアフリー化
- ・無形世界遺産である「和食」を世界へ発信する場として活用（各地域の食材を活用）。健康寿命に繋がるエビデンスの提示
- ・最先端技術による防災対策が施され、もし大規模災害が発生しても安全である（犠牲者なし）よう準備

広域周遊観光

- ・万博会場と世界遺産などの周辺観光地を組み合わせた旅行商品を開発
- ・万博と体験プログラムを組み合わせた教育旅行の誘致
- ・万博会場と周辺観光地を周遊するクルーズ船の運航
- ・観光地への最適ルートや周遊プランをAIが提案するチケットセンターの設置
- ・万博入場チケットに関西全域で鉄道・バス等の周遊パスを付帯
- ・MICE 誘致

新たな投資を呼び込む

- ・関西の利点を国内外にアピール
 - ①東アジアを中心とした我が国のゲートウェイ機能
 - ②職住楽のエリアが近接し、暮らしやすい地域
 - ③ライフサイエンス分野をはじめ様々な分野で多くのビジネスチャンスが存在

後世に残すべきレガシー

- ・最先端技術の実証による新たな産業の育成
- ・最先端技術の体験や世界の人々と交流することにより、次世代の研究開発を支える子どもたちを育成
- ・会場のバリアフリーを徹底し、ノーマライゼーションの精神

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

本万博は、新しい価値観や社会・経済システムを共創する「未来社会の実験場」と位置づけられており、最先端技術が次々と生まれてくる中、自分達の歴史・文化と最先端技術を組み合わせて、会場全体が未来社会を体験（実験）できる場であるとともに、環境への配慮が重要。

バーチャル体験

- ・ 5G を活用し、会場と関西の観光地を繋ぎ、祭り、自然、世界遺産などをバーチャル体験
- ・ 小型衛星と会場を繋ぎ、映像によるバーチャル宇宙体験（ロケット打ち上げを射場で見学）
- ・ 3D ホログラムと VR メガネなどを活用し、未来のオフィスを体験
- ・ 各地の伝統工芸品を展示し、制作をロボットなどで再現（紀州漆器、紀州筆筒等）

環境への配慮

- ・ 廃棄物を出さない博覧会
- ・ 水素発電と再生可能エネルギーを組み合わせた CO2 フリーの電力供給
- ・ 環境にやさしい技術の展示（メタンガス発電プラント、パイル生地を利用した排水処理技術）

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

すべての来場者がバリアフリーはもちろん、ストレスフリーで会場内を移動できること。また、周辺地域のインフラ整備を加速することで、関西全体で広くおもてなしができる。

スーパーシティ

- ・ 顔認証や指紋認証などによるハンズフリー、キャッシュレス
- ・ 高齢者や障がい者も利用可能な自動運転
- ・ 入場タグなどウェアラブル端末のセンサーと 5G を活用した来場者の体調管理
- ・ AI とロボットによる、個人の嗜好や健康状態に応じた食事の提供
- ・ AI を活用し、その場その時に応じた待ち時間のない万博を提供

インフラ整備

- ・ 万博までに高規格幹線道路（近畿自動車道紀勢線、京奈和自動車道、新名神高速道路など）の整備を完成させ、万博会場を起点とする広域的な観光周遊ルートを造成
- ・ 夢洲と関西空港、マリーナシティ、白浜などを結ぶ海上輸送
- ・ ホテルシップを会場及び和歌山下津港など大型客船の係留できる港に停泊

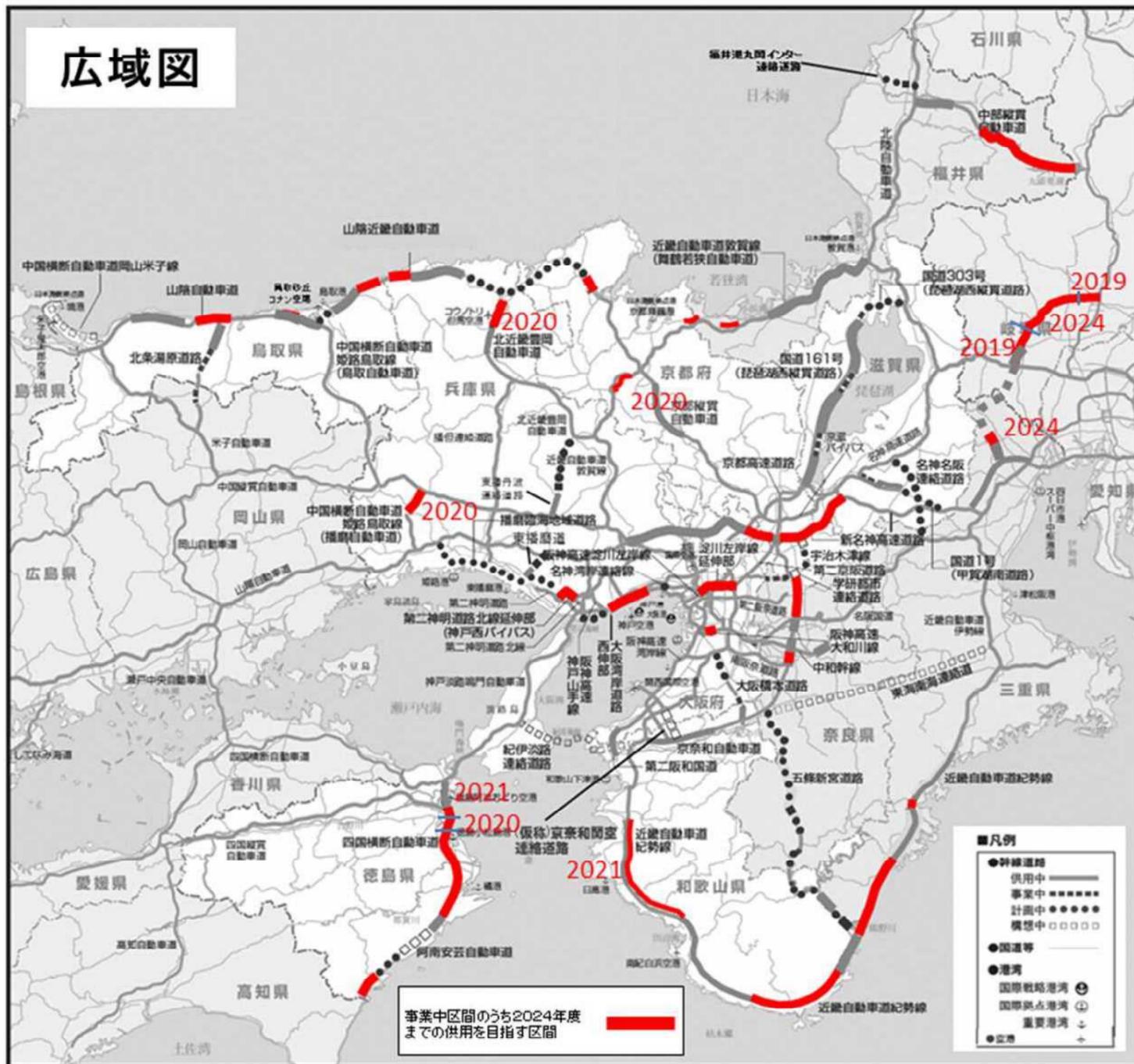
4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

関西経済への貢献

- ・ 建築工事、資材等を地元企業から優先調達
- ・ 国産材（紀州材等）を使用した木造建築の推奨
- ・ 各地方空港で連携したチャーター便の誘致

以上

大阪・関西万博までの高速道路の整備について



【関西広域連合インフラマップ】

- 万博の効果を最大化させるには、万博会場や関西国際空港等の周辺地域を起点とした各地へのアクセスの効率化が急務
- そのため、万博開催までの5年間で高速道路の事業中区間の完成に向け取り組む必要がある
- それに必要な事業費は、2兆2千億円（内、国直轄事業費 約1兆2千億円）
 - ・ 2020年から2024年までの5年間で、国直轄事業費は、年平均 約2,400億円必要
 - ・ 2024年度までに供用を目指す事業中区間は、16路線38区間 延長 約370km

大阪・関西万博開催に向けた意見

所属 関西広域連合委員 京都府知事 名前 西脇 隆俊

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

- 大阪・関西万博を一過性のイベントに終わらせないこと
(万博をリーディングプロジェクトとして、次につなげていく方向性の整理(社会づくり、文化づくり、まちづくり、産業づくりの視点))

(例示)

- ・ 社会づくり：国、民族、老若男女、言語、宗教、コンディションにとらわれない、あらゆる層の社会参画(誰もがアクセス可能で、参画(意見)ができる場としての万博)
- ・ 文化づくり：異なる文化との交流を通じた、新しい価値観・幸せの形の提示
豊かな日本のライフスタイル(食文化、医療、健康、教育)の提示
- ・ まちづくり：Society5.0・スマートシティの体感、MaaSなどの移動手段の実装
過去の災害対応を踏まえた防災・減災システムの構築
- ・ 産業づくり：新たな時代のスマート技術(バイオ医薬品、AIなど)を活用した世界レベルのライフサイエンス分野のさらなる振興

- 大阪・関西万博の効果を、関西全体、日本全体、世界に広げていくこと

(例示)

- ・ 関西：関西広域をサテライト的に位置付け、周遊・体験・体感する仕組みづくり
関西各地の企業・研究施設と連携した取組の展開
- ・ 日本：G20大阪サミット、ゴールデン・スポーツイヤーズから始まる国際的イベントの開催を通じた、機運やレガシーの創出
- ・ 世界：世界中の英知を結集した、人類共通の「いのち」に係る課題解決に向けた宣言・協定の締結

- それぞれが、また多様な「いのちが輝く」あり方を実現すること

(例示)

- ・ 女性、障害者、子ども、高齢者などすべての人々が健康に過ごせるような社会の実現
- ・ 「健康長寿」ととどまらず、「生命倫理」までを含む幅広い「いのち」のあり方
- ・ 「科学技術」と「文化・宗教・哲学」の関係性を問いかける場の提供

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

- 未来社会の技術の実装

(例示)

- ・ Society5.0、スマートシティ、MaaS などの移動手段 など

- 阪神・淡路大震災、東日本大震災、頻発する自然災害の経験を踏まえた災害対応力
- 豊かな日本の食文化（和食など）、脈々と続く日本の歴史・文化（老舗企業など）

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見を申し上げます。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

- 来場者・参加者が可能な限りストレスのない（待ち時間、混雑や滞留などのない）万博

(例示)

- ・ キャッシュレス・モバイル環境の整備
- ・ 様々なバリアフリー（物理的・地理的・言語的・文化的）
- ・ 全ての人が万博を体験・体感できる仕掛け（VR・AR や MaaS など） など

- 会場である、人工島・夢洲を活かした万博

(例示)

- ・ 完成形だけでなく、その整備プロセスの体感
- ・ 自然災害への適応力（液状化、台風、高潮対策）
- ・ ウォーターフロントを活かした海上アクセス整備 など

4. そのほか、御自由に御意見を申し上げます。

以上

大阪・関西万博開催に向けた意見

所属 関西広域連合委員 鳥取県知事 名前 平井 伸治

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非するべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

(1) 関西全域の顔が見える万博に

- 「関西」を世界にPRする絶好の機会であり、万博参加国はもとより全世界への関西PRをしっかりと行い、関西全域にその開催効果を行き渡らせるべきであること。

(2) 関西が有する世界共通の価値観（多様で心身共に健康な生き方、持続可能な社会・経済システム）を発信

- 関西は、自然豊かな子育て環境や悠久の歴史と文化、さらには魅力的なビジネス環境など、人が「本当の豊かさを感じながら生きていく」ことができる万国共通の価値観を体現した圏域。万博開催を契機として、これら価値観を世界に大いに発信すべきであること。

(3) 関西の観光資源や固有技術（先端技術等）を発信

- 関西が有する豊富かつバラエティに富んだ観光資源、世界をリードしうる先端・伝統技術をしっかりと発信しながら、観光・産業分野における新たな人的・ビジネス交流のきっかけとすべきであること。
 - ・ 観光分野においては、2019年のラグビーワールドカップに始まり、2020年東京オリパラから万博開催までの継続した国際的イベントを、インバウンド需要につなげていくためには関西全体で長期的な取組が必要。
 - ・ 産業分野においても、関西の先端技術や伝統技術に光があたり、モノづくり現場や最先端技術を備えた工場などを対象とした産業ツーリズムのほか、世界の各種課題解決につながるような新たな投資、ビジネスチャンスに繋がることを期待したい。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

大阪・関西万博テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現に向け、提供・貢献できる主なコンテンツは以下のとおり。

(1) 日本食の起源「関西の食と食文化」

- ・ 世界に誇る高品質な農林水産物（肉質日本一の鳥取和牛、蟹取県、森のダイヤ「鳥取茸王」、令和の銘柄米「星空舞」）
- ・ 日本の歴史を辿る「関西の食文化」（京料理、茶、日本酒（酒米強力）、各地の郷土料理）等

(2) 自然・文化などバラエティ溢れる観光資源

- ・ 豊かな自然環境をフィールドとした観光資源（山陰海岸ジオパーク、星空、水資源）
- ・ 海外で人気を博するサブカルチャーの聖地（マンガ王国とっとり）
- ・ 日本の原風景を体感できる滞在型観光（ファームステイ）
- ・ 関西文化ルートの構築（鳥取県立美術館開館を契機とした美術館周遊） 等

(3) ライフサイエンス分野との連携が可能な先端技術

- ・ 抗体医薬品開発に貢献する染色体工学技術（とっとりバイオフィロンティアで開発）
- ・ カニ殻由来のキチンナノファイバー（機能性食品開発に有効性を示す）
- ・ 豊かな食を生み出す育種技術（梨・柿・和牛）
- ・ 安全安心で資源保護を促す陸上養殖 等

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見を願います。

（例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等）

(1) 既存交通インフラ（陸・海・空）活用による海外受入体制の強化

- ・ 既存国際空港（関西国際空港、米子空港等）の活用
- ・ 既存国際航路（大阪、神戸、境港等）の活用
- ・ 本会場アクセス強化に向けた国内二次交通（陸上、海上交通）の活用と充実

(2) 関西圏域における特別周遊パス発行による域内周遊の促進

(3) 関西広域連合構成各府県へのサテライト会場の設置

- ・ 大阪メイン会場と連動した「バーチャル会場」としてサテライト会場を設置し、各地域の観光資源・文化などを発信
- ・ 大阪メイン会場やサテライト会場への地域素材（国産材、食等）・技術の活用

以上

大阪・関西万博開催に向けた意見

所属 関西広域連合委員 滋賀県知事 名前 三日月 大造

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非するべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

(全体)

- ・関西各地域の実践の取組や資源を、それぞれの実際の現場で体感・体験できるよう、誘引する仕組みが構築されること。
- ・大阪・関西と世界の国々の様々な交流のもと、世界の抱える社会的な課題の解決(=SDGsの目標に向けた取組の促進)の一助となり、持続可能な地域経済の発展につながることを。

(SDGsへの貢献)

- ・琵琶湖淀川水系の水環境保全の取組をはじめ、豊かな自然と調和する人々の暮らしや、「売り手よし、買い手よし、世間よし」という近江商人の「三方よし」の精神、「この子らを世の光に」として取り組んだ障害者福祉の父・糸賀一雄氏の実践など、こうした思想や歴史、文化、生活をSDGsに通じるものとして広く紹介し、未来社会のデザインを示す場となること。

(イノベーションの創出)

- ・大阪・関西万博が、関西地域(それぞれの府県市域)が有する世界に誇れる資産や資源、技術やポテンシャルなどを生かすことで、来るべき未来社会に向けた新しい価値を生み出す実験場、つまりイノベーション創出の実践の場となるとともに、これらを国内外に発信する機会となること。また、少子・高齢化や人口減少などに直面している日本が、それを負の課題として捉えることなく、イノベーションを生み出しながら、テクノロジーの発展を促し、新たな市場が形成されること。

(観光資源の発信と誘い)

- ・和食を代表する関西の食文化、歴史や自然など、関西が有する豊富な観光資源を活用した広域周遊による交流人口が増加すること。
- ・関西地域の観光資源の中でも未だ世界的には知られていない観光資源の発信の絶好の機会と捉え、海外からの観光客の各地域へのいざないにつながることを。

(日本独自のライフスタイルの発信)

- ・世界一の長寿を生み出した社会・医療システムの発信はもとより、日本独特の自然や環境と調和した人々の暮らしの豊かさや「癒し」を世界に発信すること。さらに、国内に向けてもライフスタイルの再認識・気づきを促す機会となること。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

(イノベーションの創出)

- ・SDGsの達成につながる産業の振興など世界の社会的課題解決に貢献するイノベーションの創出に向けた取組。(例：大企業だけでなく、中小企業のSDGsの取り組みを発表する場)
- ・イノベーションが絶え間なく生み出される環境(エコシステム)の整備。(例：ドローンなどの実証実験の場を積極的に提供)
- ・大手企業と中小企業(ベンチャー含む)、異業種間だけでなく、都市部と地方間の連携により生み出される新たな取組。

(食文化の発信)

- ・世界トップレベルの健康長寿を支える日本の食材(農畜水産物)や食文化。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

(交通アクセスの充実)

- ・本会場と関西各地域への交通アクセスが充実すること。(新しいインフラ整備だけではなく、既存の交通ネットワーク(鉄道やバス等)を活用したアクセスの充実を図ること。)
- ・共通周遊パスなど海外の観光客が関西の各地域へ周遊を促進する仕掛けづくり。

(会場運営)

- ・会場内の売店でのプラスチック製容器包装の代替品を使用すること。
- ・会場内レストラン等での食品ロス削減の徹底を図ること。
- ・再生可能エネルギーや水素エネルギーによる電力供給を図ること。
- ・ミストシャワーやクールスポットなどの整備、携帯電話やスマートフォンでの事前予約システム整備による待機列の緩和などの予防策が実施されること。
- ・パビリオンへの入場など、待ち時間をなくす対策ができることが望ましいが、並んでいる行列が楽しめる空間となるような工夫が施されること。
- ・災害や事故など、安全・安心に最大の配慮を行うとともに、万全な体制や措置が実施されること。
- ・関西を拠点として活動するクリエイターを活用すること。

4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

(地元資材の調達)

- ・会場整備をはじめ、建設投資や設備投資、物品等の購入などにおいては、関西の地元企業等から調達されるように配慮されること。

以上

大阪・関西万博開催に向けた意見

所属 関西広域連合委員 大阪府知事 名前 吉村 洋文

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

大阪府は、国、経済界、博覧会協会と一体となり、Society 5.0 を鍵とした SDGs 達成への貢献など、大阪・関西万博が掲げる所期の目的達成に主体的に取り組んでいく。

《大阪・関西万博への期待》

- 万博は、次に掲げる大阪・関西の多彩なポテンシャルと人類の共通課題への解決策を世界に向けて発信できる絶好の機会。
 - ・ ライフサイエンスやバイオメディカルの研究機関や企業の集積
 - ・ オンリーワンと称される高い技術力をもつ中小企業の集積
 - ・ 世界遺産をはじめとする多くの魅力的な観光資源、豊かな歴史・文化
 - ・ 主要都市への交通アクセスの利便性
 - ・ 安心安全なまち、おもてなしの心
- 万博のテーマである「いのち」をキーコンセプトに世界の価値観を変えていく、あるいは新たな価値観を生み出していくことが重要。iPS 細胞などの最新技術を活用して人工臓器を展示するなど、世界の人々があっと驚く万博を創り上げる。
- また、子どもが夢や希望を持って未来を想像し、世界に目を向けるようになる万博、大阪・関西が誇る悠久の歴史・文化が異なる文化との交流を通じてさらに豊かなものとなる万博を創り上げる。
- さらに、中小企業にとっても大きなビジネスチャンスとなる大阪・関西万博のインパクトを中小企業の活性化につなげていく。

《大阪・関西万博の成功に向けて》

- 大阪・関西万博は、開催地のみならず、2020年の東京オリンピック・パラリンピック後の日本の成長にも貢献できる国家プロジェクト。実施主体となる博覧会協会を中心に、国・地元自治体・経済界が一体となったオールジャパンで取組むことが成功の鍵を握る。
- これまででない「ワクワクする万博」を創り上げるために、若いクリエイターの斬新なアイデアや世界中の叡智を結集させることが必要。また、未来社会の実験場としてこれまでの常識を覆す万博を開催するために、規制緩和等の環境整備を実施すべき。
- 大阪・関西万博は2025年に始まるものではない。万博開催に向けて、機運を醸成しながら万博のコンセプトやレガシーを共有していくことが重要。大阪府では万博開催までの間、先端技術を活用した快適な生活、いのち・健康などを先取りした「スマートシティ」を進めていく。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

《今後の成長・発展の柱として》

- 世界の人々の生活を豊で最適なものへと変えていく新たな技術やサービス、アイデアなどが提案される大阪・関西万博は、世界各国の発展につながる道筋をつけるとともに、大阪・関西の強みを伸ばし、日本の経済成長をけん引していく機会となることが重要。
- そのための実証実験の場である大阪・関西万博では、世界中のNGO・NPO等からの提案を来場者に体験・体感していただくことが重要。「いのち輝く未来社会のデザイン」のテーマやSDGs達成への貢献に適うコンテンツを様々な方から提供していただくような仕組みを構築する。

《日本の歴史・文化への共感》

- 185 日間の開催期間中、日本国内のみならず世界中から約 2800 万人が来場し、バーチャル参加を含む世界の約 80 億人がアクセスする万博を実現することで、世界の人々が大阪・関西をはじめ日本の歴史や文化などに共感し、万博の開催期間中、閉幕後も日本各地を訪れていただけるような仕掛けを設ける。
- 例えば、万博会場において、大阪・関西をはじめ全国各地の様々なお祭りを披露するなど、日本の歴史・文化、食や自然の風景等を世界に向けて発信することで、日本への関心を高めていく。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

《日本各地との連携》

- 万博の成功に向けて、まずは国内機運を醸成していくことが重要。万博の開催期間中も、全国で機運が盛り上がるよう、各地で行われるイベントと万博会場を連携させ、万博に行ってみたい気持ちを国中で喚起する。
- 是非、各都道府県や市町村においても検討し、主体的に取り組んでいただきたい。

《万博レガシーの活用》

- 大阪・関西万博を一過性のイベントとして終わらせることなく、これからの日本の成長に活かしていけるよう、会場建設着手前の段階から跡地利用の方策を睨んだ検討と取組みを実施する。

4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

- 万博会場のWEB配信などにより、実際に会場に足を運べない人が、大阪・関西万博を仮想体験できるといった環境を整備することについて、検討が必要。

以上

大阪・関西万博開催に向けた意見

所属 関西広域連合委員 奈良県知事 名前 荒井 正吾

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

- 大阪・関西万博が「いのち輝く未来社会デザイン」のテーマのもと、世界各国の英知が集められ、多くの人々が新たな技術や製品に触れる機会となるとともに、多くの文化交流が進むことを期待している。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

- 万博は、最先端技術など世界の英知が結集し、新たなアイデアを創造・発信する場であるとともに、豊かな日本文化の発信のチャンスでもあると思っている。
- 万博に国内外の各地から来られた方々が、その前後に、「日本国家はじまりの地」である奈良県を訪れていただくことで、豊かな歴史・文化遺産にも触れていただきたいと考えている。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

- 万博は、各国のパビリオンが一会場で集中することが大きな魅力であるため、サテライト会場を設けるより、夢洲に集中投資される方が良いと思っている。
- 会場へのアクセス交通については、奈良県からも直接会場に向かうことができるような鉄道整備が進むことを期待している

4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

- 奈良県も、万博に向けた機運醸成など、万博開催に積極的に協力していきたいと考えている。

以上

大阪・関西万博開催に向けた意見

所属 関西広域連合委員 徳島県知事 名前 飯泉 嘉門

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

- 我が国においては東京一極集中に歯止めがかかっておらず、関西では7年連続で人口の転出超過が続くとともに、企業の本社数もシェアが低下しており、**関西の活力向上**が急務となっている。
- 「2025年大阪・関西万博」は、インバウンドの更なる増加が見込まれる「G20大阪サミット」、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」に続く世界的イベントであり、これらの事業を単発的なものとすることなく、2025年における関西の力を最大化するため、各種施策、プロジェクトを連動させて、戦略的に講じ、「大阪・関西万博」を、「SDGs」達成をリードする「**関西**」そして「**日本**」の活力を世界にアピールする契機とするべきである。
- 東京圏から関西へ跨がる超巨大都市圏「スーパー・メガリージョン」の形成が、2030年代にも見込まれる中、万博を契機として、大阪湾ベイエリア全域の陸海空の交通体系が「国家戦略」として整備され、それらがレガシーとして承継されることによって、アジアとの結びつきが強い「**関西**」が「**ハブ機能**」を担い、「東京圏」に並び立つ「**関西**」となる、「**国土の双眼構造**」が実現することを、大いに期待する。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

- **最先端のライフサイエンス分野**
例：徳島県における医光融合研究
ポストLED（深紫外、テラヘルツ、赤外光コム）、LD等の革新的“光”技術の紹介
- **関西ならではの「食」と「文化」の実体験（体感イベント）**
例：阿波文化の魅力体感：4大モチーフ（阿波藍・阿波人形浄瑠璃・阿波おどり・ベートーヴェン第九）
関西圏内の食材と食文化の発信
- **地域観光資源の魅力発信**
例：「にし阿波地域」（観光圏・食と農の景勝地・世界農業遺産のトリプル認定）
- **クールジャパン（サブ（メイン）カルチャー・ポップカルチャー）**
- **AR（拡張現実）、MR（複合現実）、VR等最先端技術の実証**
例：徳島県ならではの「豊かな自然」や本場の「阿波おどり」、健康作りのための「阿波踊り体操」などのヴァーチャル体感、VRを利用した遠隔服薬指導
- **遠隔参加による「eスポーツ」世界大会の開催**
- **ウォークビズなどの健康スタイルの発信**

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。
(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

(会場アクセス)

- **新たな「海上交通」の導入**
 - ・多様なアクセス手段による利便性の確保・渋滞緩和対策の観点から、**会場西側からの交通アクセス**としての新たな「海上交通」の導入
 - ・外国人観光客を、関西各地へと周遊や滞在させるための取組み
- **「バーチャル会場」の早期開設**
 - ・開催前のできるだけ早い時期にバーチャル会場のインターネット上への開設
- **24時間対応可能な「ワンストップ予約システム」・「多言語FAQサポート」の導入**
 - ・会場内外の施設や地域、観光、宿泊施設のワンストップ予約システムの導入
 - ・AIチャットボットによる多言語FAQサポートの設定

(パビリオン・関連イベント)

- **地方主体のパビリオン出展**
 - ・地域の魅力を発信するための地方主体のパビリオン出展
- **「万博関連オフィシャルイベント」への位置づけ**
 - ・国内外から人を呼び込む地方主催の「大阪・関西万博」関連イベントを、トータルコンセプトとして「万博関連オフィシャルイベント」として位置付け

(環境に配慮した会場デザイン)

- **エシカル消費・食品ロス削減**
 - ・会場内の売店やレストラン等でのエシカル商品の取り扱い
 - ・会場内の食品ロス削減の徹底
- **「使い捨てプラスチック・フリー」化、または「バイオプラスチック使用100%」の実現**
- **日本の「木」の文化の発信**
 - ・会場施設のふんだんな木材利用と、木材を利用した展示による日本らしさの演出
- **伝統文化を応用した新分野の「藍」応用製品・技術等の活用**
- **究極のクリーンエネルギー「水素」の社会実装**
 - ・会場内全施設への自然エネルギーによる熱・電気の供給
 - ・「燃料電池バス」「燃料電池船」など「水素モビリティ」の積極導入による脱炭素型輸送体制の構築
- **夜間営業の長めの設定**
 - ・学校や仕事終わりの来場者や国外来場者のニーズの充足、暑さ対策
- **高品質・高機能な次世代LED・LD応用製品を活用した警備**
 - ・ドローンLED・LD等を活用した夜間警備
 - ・テラヘルツ光応用製品・技術を活用した不審物・持ち物検査によるテロ対策

以上

大阪・関西万博開催に向けた意見

所属 関西広域連合委員 大阪市長 名前 松井 一郎

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

●大阪・関西の経済成長

- ・ライフサイエンス分野の様々な機関が集積している大阪・関西の強みを活かし、新たな産業を生み出し、イノベーションを起こし、大阪・関西の経済成長に繋げるべき。
- ・経済波及効果が見込まれる万博が、地元企業にとって、大きなビジネスチャンスとなり、大阪・関西の地域経済の更なる発展に繋げるべき。

●最新技術の体験

- ・世界中が驚くような最新技術を体験できる万博にすることで、新たな価値観を生み出し、新たな夢を抱けるような万博にすべき。

●若手クリエイターの登用

- ・1970年万博では、黒川紀章氏、コシノジュンコ氏など、当時30歳代の若手クリエイターが積極的に登用されていた。2025年万博も積極的に若手クリエイターを登用するのが重要。

●幅広い市民参画

- ・ボランティアを含め幅広い市民参画を取り入れ、世界の人々との出会いを通じて市民が楽しみながら万博に参加し、まち全体としておもてなしが創出されるような万博にすべき。

●子ども達と世界の人々とのふれあい

- ・これから、ますます世界中の国と国が繋がっていく国際社会となる。万博を機に未来社会を担う子ども達が世界の方々と交流できるような体験を検討すべき。

●大阪文化の発信

- ・大阪が誇る食文化・お笑い・伝統芸能を広く発信し、来場者に体験・実感していただける万博にすべき。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

●10歳若返る万博

- ・「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマの下、人が人生最期まで、健康で豊かに自立して過ごせるための、モノや技術、サービスを提供したい。
- ・具体的には、関西・日本のライフサイエンスや健康に関する技術、サービスを最大限活用して、来場された方が「10歳若返り」を実感できる万博にしたい。

●メインとなるコンテンツ

- ・1970年万博（テーマ：人類の進歩と調和）の「月の石」や、2005年万博（テーマ：自然の叡智）の「冷凍マンモス」のように、今回の万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」に沿った、世界中の人々が体験してみたいと思えるようなコンテンツを考えて欲しい。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

（例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等）

●輸送手段の多様化

- ・自動運転技術など最新技術の活用や、新たな輸送手段の開発・実証を行い、交通の効率化や多様化を通じて会場への移動や会場内での移動も含めて楽しめるような万博にすべき。

●オープン・イノベーション

- ・イノベーションによりSDGsの達成を加速化させるため、国内外、中小企業と大企業、伝統技術と最先端技術など、企業規模や業種や時代を超え、それぞれが持つ技術や知識を結びつけるオープン・イノベーションの場とすべき。

●社会実験場としての規制緩和

- ・万博を機に、新しい産業を生み出すような環境づくりができるよう、夢洲周辺等で規制を無くした地域を作り、あらゆる実験が可能となる万博にすべき。

●万全な災害対策

- ・夢洲の万博会場は、十分な地盤高を確保するなど、津波や高潮への安全性を備えた造成を大阪市内において行っているが、万博の運営においても全ての来場者が安心して楽しめるよう、ハード・ソフト両面から災害対策をしっかりと行うべき。

4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

●G20大阪サミット・東京2020のノウハウの活用

- ・会場運営やボランティアの活用、インバウンド対応など、ビッグイベントならではの経験・ノウハウを万博に活かすべき。

●国主導の広報活動の強化

- ・万博は国家プロジェクトであり、国内外への情報発信を定期的に行うなど、国が主体的に開催機運を醸成していく必要がある。とりわけ交通政策をはじめ、地元に対する広報活動の徹底をお願いしたい。

以上

大阪・関西万博開催に向けた意見

所属 関西広域連合委員 神戸市長 名前 久元 喜造

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

- 万博の大阪・関西での開催は、全世界に向けて関西の存在感を示す絶好の機会。
- 東京一極集中に対する関西の発信力向上にもつながる。
- 訪日外国人旅行者の増加などにより、関西に大きな経済効果が期待される。
- G20 大阪、ラグビーワールドカップ、ワールドマスターズ関西 2021 から 2025 年万博にかけて、関西が世界中から注目される。関西の元気を見せる好機。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

関西の強みを生かしたコンテンツ×万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」

- 先端医療（関西には京都、大阪、神戸に再生医療等の先端医療産業が集中）神戸においても、世界を代表する医療クラスターを目指し医療産業都市構想を推進しており、関連した取り組みを行いたい。
- 高齢者が安心して暮らすことができるまちづくり。（だれもが経験するかもしれない認知症等に対して社会全体で対応）
- 脱炭素化への挑戦（水素社会実現に向けて）への関西各地の取り組み
- AI 等最先端技術の活用・実証（会場内・会場と駐車場等を結ぶ交通の自動運転化、待ち時間を予測した会場運営）
- 日本・関西の防災・減災のノウハウの発信（阪神・淡路大震災（1995）、鳥取中部地震（2016年）、東日本大震災（2011年）、大阪府北部地震（2018年）等これまでの災害や今後想定される南海トラフ地震に対する防災力）ハード対策だけでなくソフト対策含めて。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

- 万博会場となる夢洲と神戸や関西各地を結ぶ海上交通×関西各地の特性を生かした関連イベントを開催し周遊を促す。
これらにより回遊性が高まり、万博の効果を各地に波及させることが可能
海上交通は、交通の分散化による道路の渋滞対策にも寄与。災害時の代替経路にもなると考えられる。
- 暑さ対策
昨夏の記録的な猛暑のように健康への影響が懸念される。神戸市ではまちづくりから住まい方などの観点から異常高温対策を研究。

4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

以上

大阪・関西万博開催に向けた意見

所属 関西広域連合委員 京都市長 名前 門川 大作

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

- 「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマは、すべての人に健康と福祉を、というSDGsの理念にも重なる。大阪・関西万博が、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実証の場となることに期待する。
- 京都には、歴史、芸術、景観、食、ものづくりといった多様な文化や、大阪・関西万博のテーマにも合致する健康・ライフサイエンス分野の研究機関や企業等が集積している。万博を訪れた方々に関西の魅力に触れていただき、ファンになってもらい、繰り返し訪れていただくために、京都が貢献できる部分も大きいと考えている。
- また、2021年には「ワールドマスターズゲームズ2021 関西・ジャパン」が開催され、この大会の開会式は京都で行われる。ワールドマスターズゲームズのレガシーを大阪・関西万博にしっかりと繋げるべき。
- 更に、大阪・関西万博の成果を、その先の関西・日本の発展に繋げていかなければならない。一過性のイベントとすることなく、後世に何か残せるような仕掛けを考えていく必要があると考える。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

- 関西、特に京都においては、健康・医療の先端技術をはじめ、文化・芸術、歴史、食文化など、世界に誇る多くの資源がある。これらを最大限に活用し、万博を契機に大阪・関西の更なる魅力発信を図りたい。
- また、これらの資源の担い手は、大企業だけでなく、中小企業や伝統産業の担い手である一個人であったりする。あらゆる企業や人が参加し、持てる技術や魅力を発揮しやすい仕組みの構築を望む。これにより、多様性のある万博の実現に繋がる。京都市においては、地域企業の持続的発展を総合的に推進する「地域企業応援プロジェクト」を実施しているところであり、そうしたノウハウや知見を万博に生かしていきたい。
- 更に、関西には、2021年に京都に文化庁が全面的に移転するほか、徳島には消費者行政新未来創造オフィスが、和歌山には統計データ活用センターが設置されるなど、地方創生をけん引している圏域である。こういった政府機関とも連携した取組を展開することで、日本全体の更なる活性化を導きたい。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

- SDGs の理念を実証するためには、ビッド・ドシエにも記載があった「会場への来場者だけでなく、全世界の人々が遠隔で参加することができる」仕組みの実現が不可欠である。
- VR や ICT などの技術も近年目まぐるしく発展しており、これから 2025 年までの間に更に伸びると思われる。よりよい万博の実現と同時に、関西・日本の企業等と十分連携を図り、万博を契機に技術力の更なる強化が図れるように進めていただきたい。

4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

- 今後、万博開催に当たって、京都の都市特性を生かしてどのような取組をすべきか、経済界等と一緒に、オール京都でしっかりと検討していきたいと考えている。こういった各自治体の取組についても御支援をお願いしたい。
- また、サテライト事業の位置付けについても、検討状況等を含め、情報提供をお願いしたい。

以上

大阪・関西万博開催に向けた意見

所属 関西広域連合連携団体 福井県知事 名前 杉本 達治

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

- **関西にとどまらず、全国から特色ある資源や技術、人材を結集して新たな価値を創出。その成果を活かして、万博後も都市や地方の間で人の行き来がさらに活発化し、関西全体の持続的な発展につながることを期待**

2025年万博テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」、サブテーマ「多様で心身ともに健康な生き方、持続可能な社会・経済システム」に沿って、関西を超えて全国から特色ある資源や技術、人材を万博に数多く集めて発信するとともに、それぞれの融合を図り、新たな価値を創出していくべき。

福井県は、とくに嶺南地域と関西とのつながりが強く、健康長寿を支える薬草や自然素材を活かした食文化など特色ある地域資源が豊富。例えば、心身ともに健康な生き方として、これらの資源と、ライフサイエンスなど他分野の資源を融合し、週末居住や観光の新たなスタイルを体感できる「WAKASAリフレッシュエリア」をつくり、関西をはじめ国内外の都市圏住民に向けて発信したい。

このように様々な資源の融合を促進するため、新たなイノベーションを起こすワークショップやセミナーなどを万博期間中に開催するなど、全国の各地域・各分野の人々の交流を活発化してはどうか。

これらの成果をもとに、関西をはじめ関東、中京、北陸など国内全域で人の行き来がさらに活発化することにより、関西圏と首都圏等をむすぶ高速交通体系の早期完成を後押しし、関西全体の持続的な発展につながることを期待する。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

● **SDGs 実現に向け、地球と人類の歴史を見える化する“年縞”の発信**

SDGs 実現のためには、これまで続いてきた地球や人類の歴史を学ぶことが極めて重要。福井県の水月湖「年縞」は、化石や遺跡の年代を測定する世界標準の基準。年縞の成分から、1 万年以上前の地球でわずか数年に平均気温が 5～7 度上昇したことが判明。さらに湖近くの遺跡の出土品をもとに、8 千年続いた縄文時代の生活の様子も年単位でわかる。

福井県では、年縞をもとに立命館大学、東京大学、英オックスフォード大学等と連携して年代測定や気候変動などの研究を推進。研究成果を万博会場で世界に発信、さらに深化させたい。

● **心身ともに健康な生き方を支える“地域文化”の発信**

歴史を重ね地域に根付いてきた「文化」には、人々の体と心の健康につながる数多くの要素がある。健康をテーマに地域文化を集結して一堂に展示する。

<例>

① **人と自然の調和や静寂を重んじる“禅（ZEN）”**

1893 年シカゴ万博（第 1 回万国宗教会議）で福井県出身の釈宗演しゃくそうえんが講演したことをきっかけに“禅”の精神が世界に浸透。今回の万博でも座禅体験、精進料理などを通じて禅文化を発信してはどうか。

② **御食国から受け継がれる自然の素材を活かした“和食”**

健康的な“和食”は世界遺産に登録され国際的評価が高い。とくに御食国といわれた淡路・若狭・志摩地域は、自然素材を活かした食の宝庫。京都・兵庫・福井・三重が連携して 2017 年から「御食国・和食の祭典」を開催している。これら関西の和食文化を発信してはどうか。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

● **万博会場と直結する「本町（船場エリア）」にウェルカムゾーンの設定**

大阪駅から万博会場への乗換地点となる「本町（船場エリア）」において、協力店を募集し、各店舗で会場案内やチケット・グッズ販売などを行うウェルカムゾーンを設定してはどうか。このエリアにある福井県大阪事務所も PR に協力したい。

以上